

授業科目	脳神経疾患身体障害支援学特論				
担当者	石倉隆・藪中良彦・岩田篤			(オムニバス)	
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	1 年	総単位数	4 単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

「脳神経疾患身体障害支援学概論」で培った脳機能解剖学、神経生理学、運動生理学、脳画像読影法を活用して模擬症例の身体障害を見出し、そのメカニズムを討論する。ケースカンファレンスでは、「概論」で培った EBR 実践法を活用して、身体障害支援の方法論を学生主導で追及していく。これにより、現場の診療における経験則を脱し、「科学的に身体障害を見出し、その身体障害を科学的に分析し、科学的根拠に則った治療」が実践できる臨床推論力が構築される。さらには、昨今の臨床現場で活用されつつある最新の脳科学的評価・治療法についても教授し、最先端医療に資する知識を教授する。

(石倉 隆 [実務家教員]・岩田 篤 [実務家教員])

脳卒中や神経変性疾患の評価とその結果や身体障害、リハビリテーションの科学的根拠を、脳機能解剖学的分析、脳画像読影から明らかにする知識を身につける。模擬症例のカンファレンスを通じて、実践的に応用できる知識に定着させる。さらに、神経リハビリテーションで注目されている経頭蓋脳刺激の臨床応用について概説し、今後の発展性についてグループディスカッションを行う。

(藪中良彦 [実務家教員])

脳性麻痺児の独歩に関係している筋力や感覚障害に加えて、脳性麻痺児の最大の障害である協調運動障害の大きな要素である Selective Motor Control について、最新の知見を講義する。また、これらの知識を用いて、脳性麻痺児の独歩獲得のために有効なアプローチについてグループディスカッションを行う。

## ■ 到達目標

- ・神経学的症候のメカニズムを科学的根拠に基づいて説明できる。
- ・その際、脳神経疾患に関する脳神経生理、脳機能解剖、脳画像などの知識、情報を活用できる。

## ■ 授業計画

(1 回 2 コマ)

第 1 回 脳卒中中の分析の視点 1 (評価結果と身体障害、リハビリテーションの神経科学的分析) (石倉 [実務家教員])

(実務家教員や実務家による授業)

第 2 回 脳卒中中の分析の視点 2 (評価結果と身体障害、リハビリテーションの神経科学的分析) (石倉 [実務家教員])

(実務家教員や実務家による授業)

第 3 回 脳卒中模擬症例における身体障害のリハビリテーションの科学的根拠検討 [グループディスカッション] (石倉 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)

第 4 回 神経変性疾患の分析の視点 1 (評価結果と身体障害、リハビリテーションの神経科学的分析) (岩田 [実務家教員])

(実務家教員や実務家による授業)

第 5 回 神経変性疾患の分析の視点 2 (評価結果と身体障害、リハビリテーションの神経科学的分析) (岩田 [実務家教員])

(実務家教員や実務家による授業)

第 6 回 神経変性疾患模擬症例における身体障害のリハビリテーションの科学的根拠検討 [グループディスカッション] (岩田 [実務家教員])

(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)

- 第7回 ケースカンファレンス1：脳卒中（新たに提示した模擬症例のカンファレンス）〔グループディスカッション〕（石倉〔実務家教員〕・藪中〔実務家教員〕・岩田〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第8回 ケースカンファレンス2：神経変性疾患（新たに提示した模擬症例のカンファレンス）〔グループディスカッション〕（石倉〔実務家教員〕・藪中〔実務家教員〕・岩田〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第9回 大脳皮質興奮性修飾のメカニズム；経頭蓋脳刺激法のリハビリテーションへの臨床応用理論（石倉〔実務家教員〕・岩田〔実務家教員〕）  
（実務家教員や実務家による授業）
- 第10回 大脳皮質興奮性修飾のメカニズム；経頭蓋脳刺激法のリハビリテーションへの臨床応用演習〔グループディスカッション〕（石倉〔実務家教員〕・岩田〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第11回 脳性麻痺の分析の視点（評価結果と身体障害、リハビリテーションの神経科学的分析）（藪中〔実務家教員〕）  
（実務家教員や実務家による授業）
- 第12回 脳性麻痺模擬症例における身体障害のリハビリテーションの科学的根拠検討〔グループディスカッション〕（藪中〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第13回 ケースカンファレンス3：脳性麻痺（新たに提示した模擬症例のカンファレンス）〔グループディスカッション〕（石倉〔実務家教員〕・藪中〔実務家教員〕・岩田〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第14回 脳性麻痺児の独歩に影響している因子（藪中〔実務家教員〕）  
（実務家教員や実務家による授業）
- 第15回 脳性麻痺児における Selective Motor Control とそのメカニズムを踏まえたアプローチの検討〔グループディスカッション〕（藪中〔実務家教員〕）  
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）

## ■ 評価方法

・第7、8、13回講義のカンファレンスのレポートを提出させ、神経学的症候の科学的考察内容、神経学的症候に対するリハビリテーションの科学的考察内容で評価する。

第7回、第8回 33点 第13回 34点 計100点

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義前に、次回の講義内容とそれまでに学習しておくべき課題を提示する。

また、各疾患の臨床症状、評価、リハビリテーションについての科学的根拠を講義前に整理すること。

## ■ 教科書

書名：不要

## ■ 参考図書

書名：別途、紹介する。

## ■ 留意事項

模擬症例は、教員が施設や対象者から承諾を得た、実際の患者を提示する。十分に守秘することを求める。

## ■ 講義受講にあたって

必修概論科目で獲得した最新の知識と技能を使用して、脳神経疾患により身体に障がいを負った対象者に対して、最新で的確な介入を科学的根拠に基づいて論理的に構築できるようになる。